

2012 年度 学校自己評価報告書(法政大学中学高等学校) (付属校学校評価 点検評価シート)

<b>教育理念・目標</b>	本校は、教育基本法の精神に則り、小学校を卒えた児童を責任感に富み自主的精神に充ちた、心身共に健康な国民に育成することを目的とする。(法政大学中学校学則第1条・目的) 本校は、教育基本法の精神に則り、中学校を卒業したものを心身共に健やかな、自由で責任感に富む人物に育て上げることが目的とする。(法政大学高等学校学則第1条・目的) 生徒・教職員一人ひとりの尊厳を重んじ、「安全・安心」「信頼と共同」「対話と討論」を重視する。
----------------	--

<b>重点目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科教育と生活指導を2本の柱にすえ、より教育的な学校組織のあり方を検討する。</li> <li>・教員集団としての教育実践力をさらに高め、一人ひとりが教師として成長できるよう努める。</li> <li>・現在のカリキュラムの検証と新カリキュラム上の作成に伴い、選択授業のあり方を検討する。</li> <li>・生徒・保護者・教職員が構成する三者協議会の学習と試行を進める。</li> </ul>
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 20XX年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	<b>建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)</b>	法政大学の学風を学習し本校教育目標について改めて議論している。自校教育の研究を開始した。研修を継続し、自校教育の意義について深めることが課題である。				
2	<b>組織運営</b>	年間6回研修を実施し、学習および討議を行った。ねらいは①生徒の実態を把握し、生活指導とは何か議論し認識を深める。②教育目標を定め、それを実現する組織をつくる。生徒アンケート結果について研修を行い、保護者・生徒にフィードバックした。引き続きよりよい組織運営のための学習と議論を継続する。				
3	<b>教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)</b>	<p>1. 教科</p> <p>中学校の教育課程では9教科とHR、リメディアルで各学年とも34単位、3年間あわせて102単位の教育活動を展開している。学習習慣の定着と基礎学力の習得をめざし、英語に3年間で19単位を配当するなど、英国数3教科に重点的に時間配分している。また、高校の学習への連結を意識して「主体的に学ぶ力」を獲得できるよう学習指導を行っている。</p> <p>高等学校の教育課程では10教科と選択科目、特別活動で各学年とも34単位、3年間あわせて102単位の教育活動を展開している。3年間、文理融合のクラス編成を採用し、共通教養としての人文・社会・自然の3科学分野を広範に学習できるカリキュラムを提供するとともに、3年次には16単位分の選択講座(2012年度は61講座)を開講し、自分の個性や適性を探り、大学の学部選択に資するよう独自で柔軟な講座配置を行っている。</p> <p>課題は以下の通りである。中高一貫校という条件もあり、高校への推薦入学が内定した中3次に後退しがちな学習意欲の維持をはかること。高校生では、法政大学への推薦資格の取得が自己目的化し、学習活動が好成績をとるための学習へと転化しがちである。よって、中高6年間を見通した教科教育を体系化し、さらに現在もすでに展開中の高3・3学期プログラムなどの大学の付属校らしい知と学びをより発展させ、生徒が学びの主体となり、生徒一人ひとりが楽しく参加できる創造・探究型授業を実践することが必要である。</p> <p>2. 生活指導</p> <p>基本的人権の尊重、安全安心を基盤に、生徒を学校づくりの中心に位置づけ説明と理解を重視し、自覚的に行動できる力の育成を目指し、生活指導のあり方の検討を行った。生徒一人ひとりはもちろん、法政中高に関わる多くの人々が安全かつより良い生活を送るためにも、ルールやマナーの大切さを認識し行動できるようになることが今後の課題である。具体的には</p> <p>①学習を中心とした学校生活の環境づくり(規律ある授業、下校時刻の検討など)</p> <p>②HRにおける生活指導カリキュラム(マナーやモラル)の検討</p> <p>③施設設備の利用マナーの向上(器物の破損防止、鍵の紛失防止、私物の管理など)</p> <p>④クラブ顧問会議・クラブコーチ懇談会の活性化とクラブ指導体制の向上</p> <p>3. 進路</p> <p>進路指導は主に高校3年生の法大推薦業務を高3学年会と共同で担当している。2012年度実績で法大推薦資格取得者は216名(96%)に達し上昇傾向にあるが、そのうちの約30名が他大学に進学した。今後、他大学受験の希望者の増加が予測されるため、一人ひとりの個性と適性を見つめ、生徒の進路希望を実現するためのより親身できめ細やかな進路指導の展開が課題となっている。</p> <p>4. 行事、自主活動</p> <p>生徒会執行部を中心に組織的に取り組み、「自治」についての学びの場として活動を行っている。各行事では実行委員会が生徒会執行部と連携しながら、生徒同士で討議を重ね、行事を成功させている。行事をみんなで協力しながら取り組むことで、想像力や段取る力、他者と協力して一つのことを創り上げることの重要性を学んでいる。今後は、クラス討議などを活発に行うことで、さらに高いレベルでの自主活動を目指すことが課題である。</p>				

4	安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)	<p>1. 保健 定期健康診断実施、応急処置、感染症対策、性教育等の健康管理、カウンセリング活動を行った。子育て茶話会を12回開催し、保護者、教師、スクールカウンセラーが子どもを取り巻く状況を共有した。インフルエンザ流行時の出欠調査・推移の把握の方法を改善したが、より効果的で持続可能な方法の検討が課題である。</p> <p>2. 安全 校地内7カ所の環境放射線量を毎日測定し測定値をHPに掲載している。施設経年劣化が始まり様々な修繕が必要となっており、校地内を巡回して点検を行っている。大規模なものとしてグラウンドの整地と人工芝の張り替えが必要となっている。安全指導としてネット・ラインの利用講習や自転車通学者対象交通安全教室等に取り組んだ。</p> <p>3. 防災 防災備品の充足・入れ替え、防災カードによる緊急時の家庭との連絡方法、避難場所の確認等を行った。避難訓練は、授業中、昼休み、放課後の訓練を学期に1回計画し、天候により1学期のみ実施。救命講習は教員対象のみ実施した。私中高協12支部と連携し各学校の防災についての意見交換を行った。課題は①防災教育の研究、マニュアルの見直し、②避難訓練のより実践的な実施方法の検討、③救命講習の実施学年・時期の検討、など。</p>	
5	連携 (保護者、卒業生、地域等)	<p>1. 保護者 役員会や各部会(文化厚生・広報編集・公費助成)、各学年PTAをサポートし活動を遂行した。PTA規約改正作業に着手し今後より合理的なものにしていく。ペアレンツウィーク期間に授業参観を行い、アンケートにより保護者の意見を徴収し、参考にした。三者協議会事務局会議を開催し生徒・保護者・教職員の連携を図った。公費助成運動は、社会情勢の変化により他私学との連携が難しい状況もありどのように取り組んでいくかが今後の課題になっている。</p> <p>2. 卒業生 第15回ホームカミングデーを行い、60名余の卒業生を迎え親交を深めた。</p> <p>3. 地域 井の頭コミュニティ祭り、三鷹台鯉のぼり、高校生による夏休み宿題講座等に取り組んだ。</p>	
6	大学との連携	<p>現在進行中の高大連携の具体的内容としては、①高3生の法政大学学部聴講制度への参加、②ウェルカムフェスタの準備、③PTA主催の法大キャンパスツアー、④法大主催のケント、サウスケント、マーベルウッド高校への留学斡旋、⑤法大野球部の6大学野球の応援、⑥卒業生をクラブコーチとしたクラブ活動指導、⑦高1生の法大キャンパスツアー、⑧卒業生を迎えての法大説明会、⑨通常授業(選択授業など)、夏期・冬期特別講座、高3の3学期プログラムなどにおける法政大学学生・教員による特別授業、⑩教育実習、⑪第7回3附属校教育研究集会を開催し、中高・大学教員、生徒、卒業生、保護者らが参加し、全体会と分科会での報告と討議を通じて交流を行った。以上の広範な高大連携が中高と大学の人的資源を有効に活用しながら、様々な回路を通じて多彩かつ活発に展開し、各分野において大きな成果を上げている。今後の高大連携の課題は、持続可能な方法で連携の継続をはかること、また、連携の内容を適宜検証しながら内容面での質的向上を進めることである。</p>	

#### 付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 20XX年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	教育理念	全体として何を大切にどのような教育を行っていくか、理念を改めて検討。法政大学が培ってきた「自由と進歩」の学風を学習し、本校の教育目標について議論した。今後合意内容を形にし、教育目標の議論を深めることが課題である。				
2	三者協議会	4月と2月に「三者協議会準備会」を開催し、規約案や食堂・購買の利用、制服、学習、文化祭等について協議した。準備会を練習と位置づけ、協議の場をもつことを通じて生徒の活動を広げていくというスタンスを重視して行った。今後は、生徒、保護者・教職員の間で「生徒を学校の主体者として育む場」という三者協議会の教育的な意義を確認し、より内容の充実したものにすることが課題である。				
3	入試広報	生徒の活動が見えやすく工夫し、オープンキャンパスに生徒・保護者による学校生活紹介ブースを設置。HPをリニューアルした。				
4	地域	全校生徒の登下校経路を調査し実態把握、井の頭公園駅利用の集中化を解消するため分散化を検討している。登下校や車内マナーの向上が課題である。隣接住民とは、グラウンド使用ルールを徹底するとともに使用日程等の協議を行う中で、関係が改善されつつある。				